

緊急を要する保全方策の実施状況

平成 24 年度に奈良公園管理事務所において実施したナラ枯れ被害対策の実施状況は次のとおりである。また、ナンキンハゼの駆除方法を確立するため、「奈良公園自然史の会」が奈良公園内にて実施した駆除実験の中間報告も併せて報告する。

1. ナラ枯れ被害対策の実施状況

(1) 対策内容

伐倒駆除・くん蒸

カシノナガキクイムシの穿孔により枯れた枯損木の伐倒・玉切、薬剤くん蒸により枯損木内のカシノナガキクイムシを駆除した。

ビニール被覆

カシノナガキクイムシの穿孔を受けたが、枯れていない被害木にビニールシートで幹を被覆し、侵入したカシノナガキクイムシの翌年度の脱出を防いだ。

(2) 平成 24 年度の春日山原始林におけるナラ枯れ対策実施状況

奈良公園管理事務所は、平成 24 年度中に、合計 65 本のナラ枯れ被害木に対して、伐倒駆除・くん蒸 21 本、ビニール被覆：44 本の対策事業を実施した。

そのうち、春日山原始林内で実施したナラ枯れ対策事業は、伐倒駆除・くん蒸が 16 本、ビニール被覆が 30 本である。その箇所は主に、若草山頂駐車場から山頂へ向かう歩道の左側である。



伐倒駆除・くん蒸の実施風景



ビニール被覆の実施風景

2. ナンキンハゼ駆除方法の検討

「奈良公園自然史の会」では、平成 23 年 5 月 25 日に若草山において、ナンキンハゼの駆除方法を確立するため、除草剤の塗布処理作業による駆除実験（8箇所）を行った。その結果、いずれの実験においてもナンキンハゼの地上部での枯死が確認できた。このことから、除草剤の塗布処理による駆除方法が有効であることが推測されるが、継続してモニタリングを実施し、萌芽の有無を確認したうえで枯死を判定する必要があると取りまとめている。

奈良公園、特に春日山原始林の保全上の課題であるナンキンハゼ、ナギの外来樹種の侵入を防ぐ上で、上記の実験結果を参照し、保全方策を確立していく必要がある。

奈良公園自然史の会が実施した駆除実験方法

除草剤を塗布するナンキンハゼを選定するとともに、塗布後の植生変化を確認するため、周辺の植生も併せて写真撮影した。

ナンキンハゼの幹を切除し、除草剤が注入できるよう切除面に小刻みに切込を入れた。

切除面に除草剤を染込ませた紙を乗せることによって、ナンキンハゼへ除草剤を塗布した。

除草剤が雨などにより周囲へ飛散して植生へ影響を与えないよう塗布部をビニールで被覆し、テープで固定した。

使用した除草剤 4 種	各除草剤の成分	各除草剤の塗布状況と該当実験地	
ラウンドアップ 原液	グリホサートイソプロピルアミン塩 原液	 実験地 2	 実験地 5
ラウンドアップ 3 倍希釈液	グリホサートイソプロピルアミン塩 約 15% 液	 実験地 3	 実験地 6
ネコソギAL1.0	グリホサートイソプロピルアミン塩 1% 液	 実験地 1	 実験地 5
オールキラー粒剤	カプチレート【3-(3.3 ジメチルウレ イド)フェニル】 ターシャリープチカルバート粒剤	 実験地 2	 実験地 8